

報道機関各位
(中部経済産業記者会、京都経済記者クラブ)

No.10-01-03
2010年5月28日

【ご案内】

消費者の満足度を高める ハードコンタクトレンズデザイン調整マイスター制度を設けています

(株)サンコンタクトレンズ(京都市中京区、社長大橋敏夫)は、眼科医の指示を受けて行うレンズデザイン調整⁽¹⁾のための高度な人材育成を目指して、独自の「ハードコンタクトレンズデザイン調整マイスター制度」を設けています。

ハードレンズは、ソフトレンズに比べてクリアな視力が得られますし、重篤な角膜^{くろめ}障害の発症が極めて少ないとされています。装用当初に若干の異物感があるため敬遠されがちですが、一人ひとりの眼に合わせてレンズを切削・研磨することが可能ですので、的確なデザイン調整をすれば多くのトラブルを解消することができます。そこで、当社では全営業マンを対象に、独自のハードコンタクトレンズデザイン調整技能マイスター制度を設け、消費者の満足度を高めています。

この制度では、当社の「オンリーワン技術」である「レンズデザイン調整技術」の実技試験(写真)と、コンタクトレンズに関連する眼科知識の筆記試験を行い、マイスター、A、B、Cの4ランクに格付けします。マイスター認定者には、毎年4月より資格手当が支給されます。B、Cランク者は、デザイン調整技術の指導が個別に行われ、毎年ランク毎にレベルアップ試験が行われます。現在、4人がAランク認定を受けています。Aランクは、マイスターの必要条件です。他に学会等での共同研究発表など高いハードルがあり、マイスターはまだ誕生していませんが、引き続きチャレンジしています。

角膜は人体の中で唯一透明で無血管の組織です。必要な酸素は、角膜の表面を流れている涙から得ています。コンタクトレンズが安全で快適に装用できるのは、瞬きの度にレンズが角膜上をゆっくり動き、角膜とレンズの間の涙が交換されることによって、新陳代謝を行っているからです。涙液交換がスムーズに行えないと、トラブルの原因となります。

歯の治療の際には歯科医が型を取って義歯を作りますが、最終的には実際に装着し、かみ合わせ状態などをみながら何回も形状調整していきます。弊社は、コンタクトレンズも同様に、眼科医と協力して一人ひとりの眼に合わせて作るべきだと考えています。角膜の形状は、一人ひとり違います。涙液交換がスムーズに行えるためには、レンズの縁の形状と角膜周辺部の形状が的確に対応していることが重要です。この形状調整を行うのがレンズデザイン調整です。

<本件のお問合せは、下記までお願いいたします。>

株式会社 サンコンタクトレンズ 担当：広報室